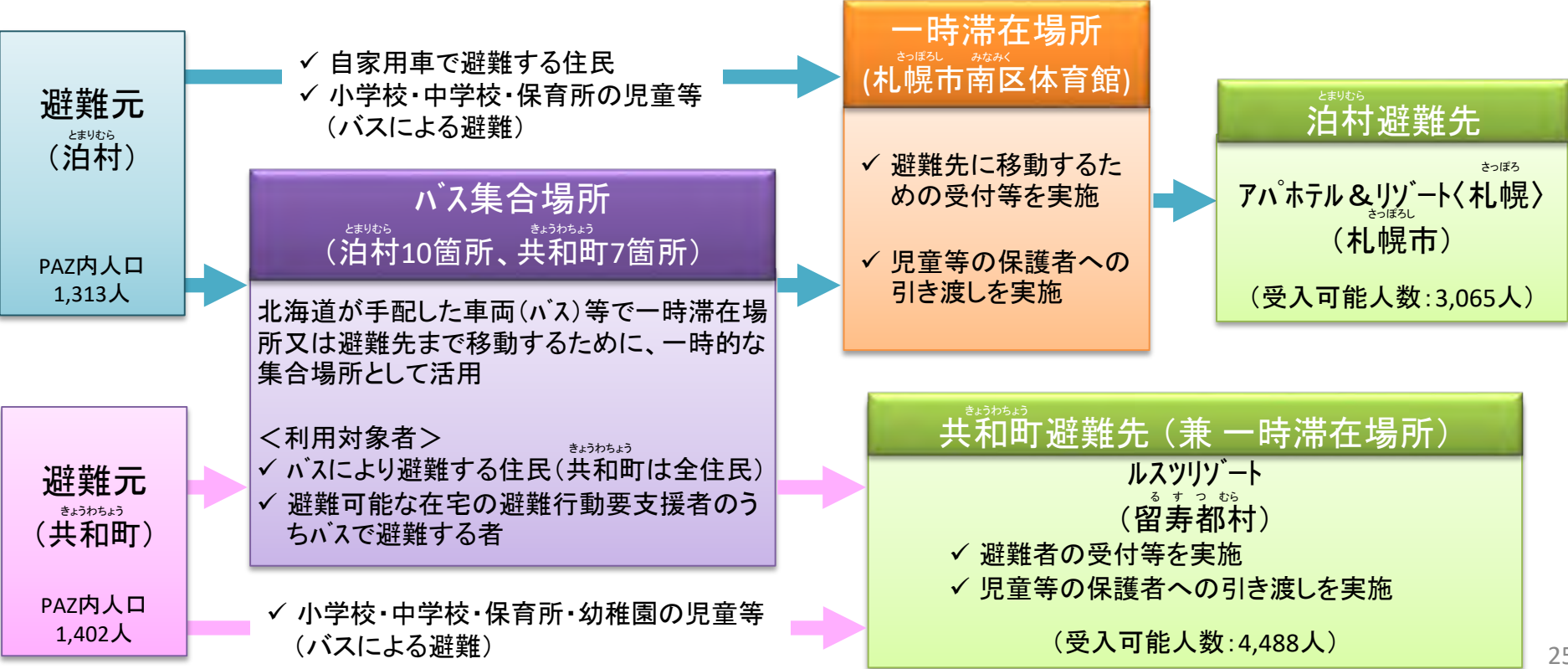


# PAZ内における避難体制

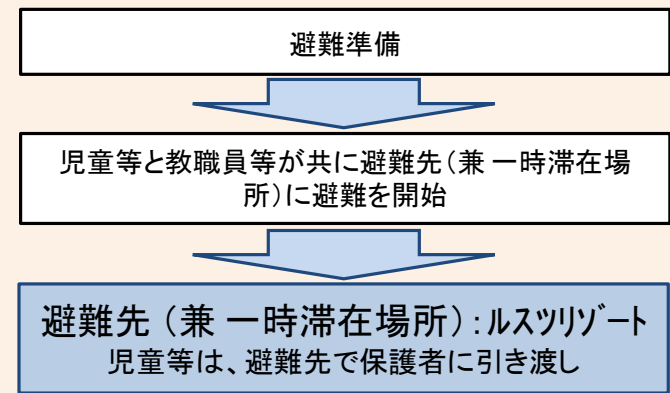
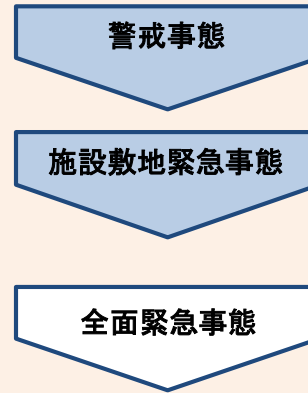
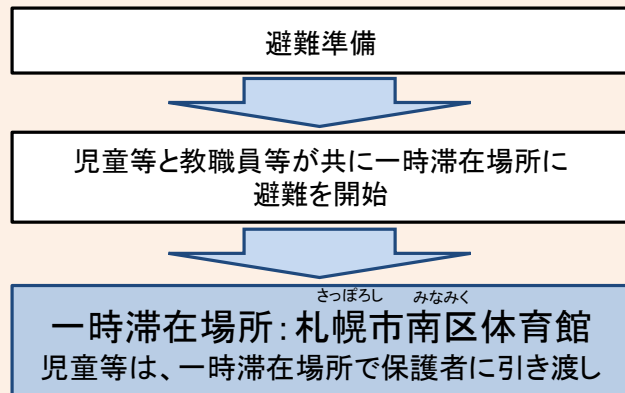
- 警戒事態が発生した場合、泊村及び共和町は住民広報、バス集合場所の開設を行い、北海道は北海道バス協会に住民避難用バスの準備要請を行う。また、北海道、泊村及び共和町は一時滞在場所の開設準備要請を行うとともに、泊村及び共和町は職員を一時滞在場所に派遣する。一方、施設敷地緊急事態要避難者は、避難準備等を行う。
- 施設敷地緊急事態になった場合、泊村及び共和町は、住民へ避難準備の周知を行う。一方、施設敷地緊急事態要避難者は、支援者が同行することで避難可能な者等はあらかじめ定められた一時滞在場所又は避難先へ避難を開始する。なお、避難の実施により健康リスクが高まる者は輸送等の避難準備が整うまで屋内退避を実施する。
- 全面緊急事態になった場合、泊村及び共和町は住民に避難を指示。自家用車で避難する住民は一時滞在場所を経由して避難先へ移動する。バスにより避難する住民(共和町は全住民)は、バス集合場所に集合し、その後、一時滞在場所を経由して避難先へ移動する。



- PAZ内の小中学校の児童等(4施設、211人)及び保育所・幼稚園の幼児(2施設、87人)は、警戒事態になった場合、避難準備を開始し、施設敷地緊急事態になった場合、教職員等とともに一時滞在場所又は避難先に移動。その後、児童等の保護者への引き渡しを実施。
- 全ての学校・保育所・幼稚園において個別避難計画を策定済。

とまりむら 泊村			
施設名	人数		
	児童等	教職員等	合計
とまり泊小学校※ <sup>1</sup>	67人	12人	79人
とまり泊中学校	38人	15人	53人
とまり保育所	39人	8人	47人
<b>合計</b>	<b>144人</b>	<b>35人</b>	<b>179人</b>

きょうわちょう 共和町			
施設名	人数		
	児童等	教職員等	合計
ほくしん北辰小学校	78人	15人	93人
きょうわ共和中学校※ <sup>2</sup>	28人	3人	31人
はまなす幼児センター	48人	16人	64人
<b>合計</b>	<b>154人</b>	<b>34人</b>	<b>188人</b>



※1: 泊小学校はUPZ内に所在するが、PAZ内に自宅が所在する児童がいることから施設敷地緊急事態で避難を開始。

※2: 共和中学校はUPZ内に所在するが、全生徒(123人)のうち、PAZ内に自宅が所在する生徒(28人)及び生徒に随行する教職員等(3人)については、施設敷地緊急事態で避難を開始。なお、UPZ内に自宅が所在する生徒(95人)は、施設敷地緊急事態で帰宅を実施。

※3: 児童等の人数については、令和2年4月1日現在。

# PAZ内の社会福祉施設の避難

- PAZ内の社会福祉施設とまりむら（泊村の2施設100人）は、個別避難計画を策定済みであり、UPZ外の黒松内町くろまつないちょうにある施設を避難先として確保。
- 避難の実施により健康リスクが高まる者は、放射線防護対策が講じられたむつみ荘（自施設内）において、輸送等の避難準備が整うまで屋内退避を実施。その他の入居者等は、あらかじめ定められた避難先施設へ避難を実施。
- 何らかの事情で、あらかじめ選定しておいた避難先施設が活用できない場合には、北海道が受入先を調整。

## 避難元施設

### <放射線防護対策施設>

村名	施設名	施設種別	入居定員数
とまりむら 泊村	むつみ荘	養護老人ホーム※1	40人
		特別養護老人ホーム	60人

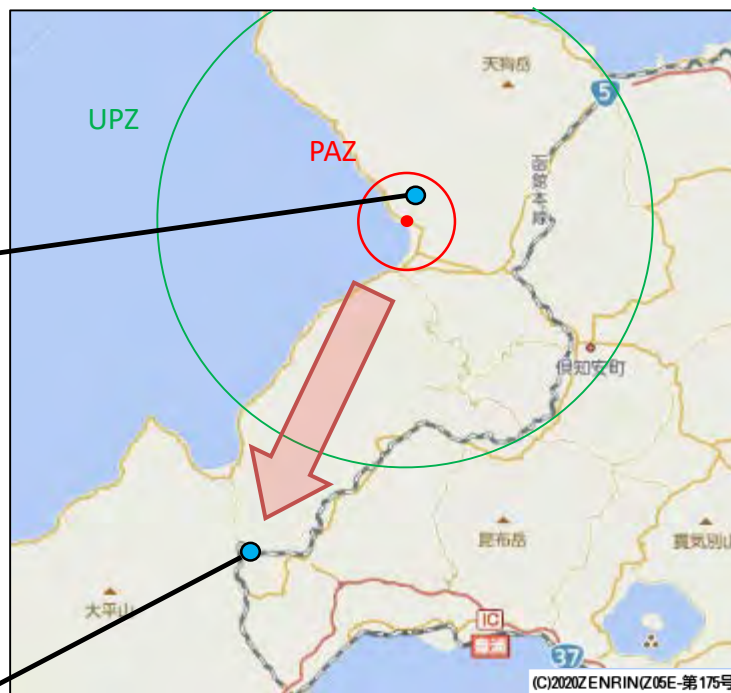
計100人

※2  
自施設内屋内退避

## 避難先施設

町名	施設名	受入見込人数
くろまつないちょう 黒松内町	くろまつない 黒松内つくし園（湯の里・黒松内）	100人

計100人



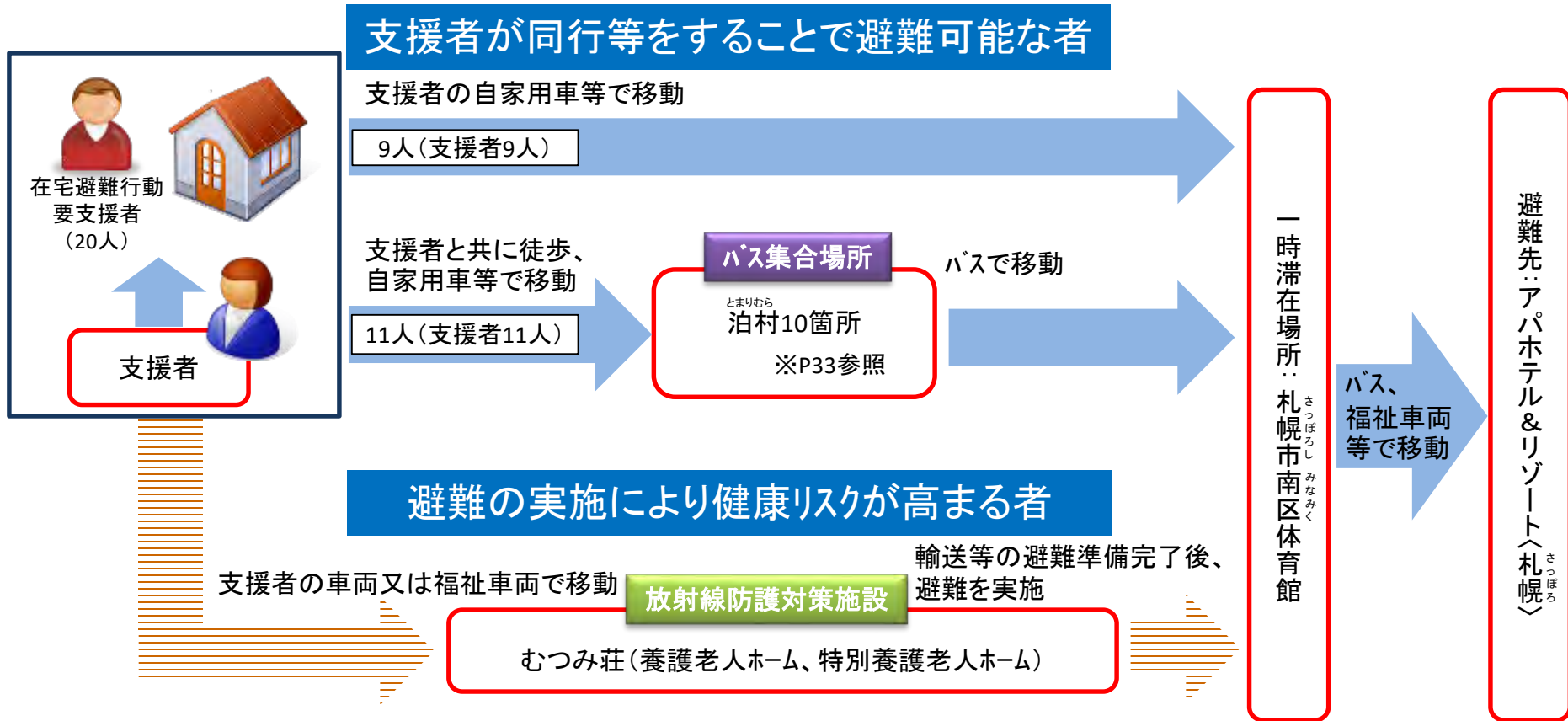
※1 短期入居者10人を含む

※2 避難の実施により健康リスクが高まる者は自施設内で屋内退避

※3 輸送等の避難準備完了後、あらかじめ定められた避難先施設へ避難

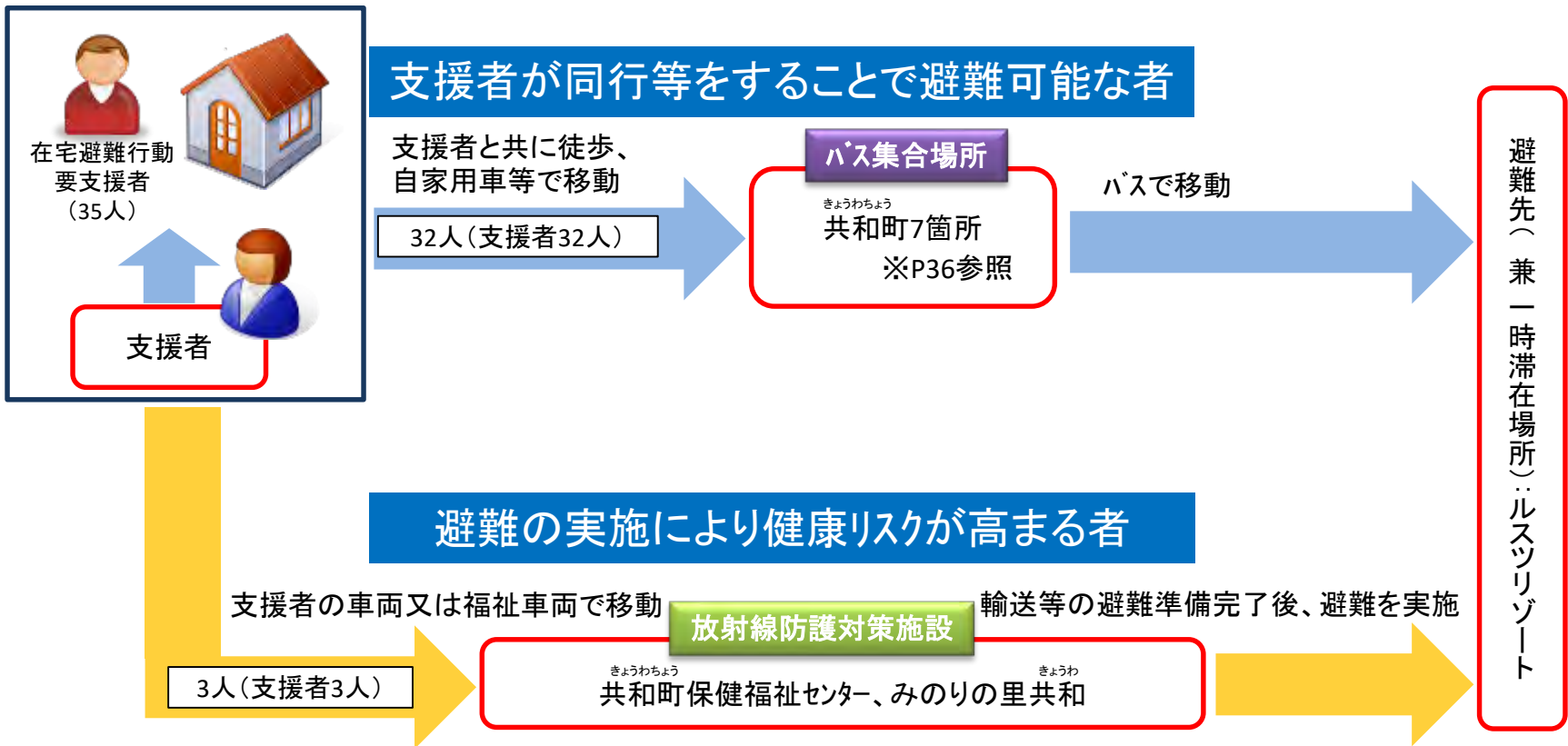
※4 その他の入居者等は、あらかじめ定められた避難先施設へ避難

- 在宅の避難行動要支援者20人全員に支援者がいることを確認。
- 支援者の同行により避難可能な者は、支援者の車両又はバスで避難先へ移動。
- 避難の実施により健康リスクが高まると判断される場合は、支援者の車両又は福祉車両で、近傍の放射線防護対策施設へ移動。輸送等の避難準備完了後、あらかじめ定められた避難先施設へ避難を実施。



※ 避難行動要支援者の数は令和2年4月1日現在。

- 在宅の避難行動要支援者35人全員に支援者がいることを確認。
- 支援者の同行により避難可能な者は、支援者と共にバス集合場所に移動し、バスで避難先へ移動。
- 避難の実施により健康リスクが高まる者は、支援者の車両又は福祉車両で、近傍の放射線防護対策施設へ移動。輸送等の避難準備完了後、あらかじめ定められた避難先施設へ避難を実施。

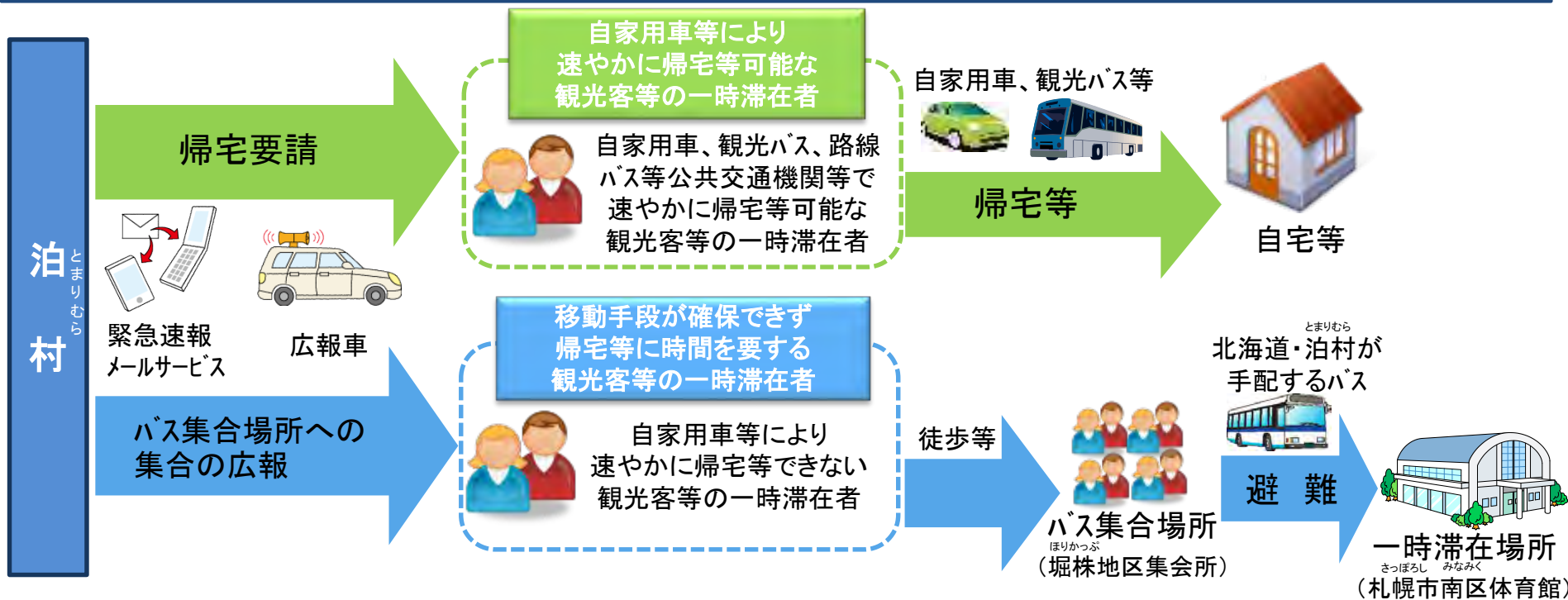


※ 避難行動要支援者の数は令和2年4月1日現在。



# PAZ内の観光客等の一時滞在者の避難等

- ▶ 観光客等の一時滞在者については、施設敷地緊急事態において、帰宅等を要請。
- ▶ 自家用車等により速やかに帰宅等可能な観光客等の一時滞在者は、自家用車等にて帰宅等を開始。
- ▶ 自家用車等により速やかに帰宅等できない観光客等の一時滞在者については、広報車によりバス集合場所を周知し、バス集合場所からバス避難を実施。
- ▶ 各民間企業は、施設敷地緊急事態において、泊村、共和町、岩内町の要請により従業員の帰宅を実施。



## <PAZ内の観光施設の状況>

町村名	施設名	観光客数
とまりむら 泊村	ほりかつぶ とまりん館・堀株海水浴場	480人程度

※観光客数については、令和2年4月1日現在のPAZ内における入場ピーク時（8月）での1日当たりの入込及び宿泊数を基に算定

- 施設敷地緊急事態で必要となる輸送能力は、想定対象人数約400人について、バス13台、福祉車両16台（ストレッチャー仕様5台、車椅子仕様11台）。

	想定対象人数	必要車両台数※1			備考
		バス※2	福祉車両 (ストレッチャー仕様)	福祉車両 (車椅子仕様)	
学校・保育所の児童等の避難	179人 (児童等144人+ 教職員等35人) (3箇所)	6台 (40人乗5台) (30人乗1台)	0台	0台	【資料P26】
社会福祉施設の入所者等の避難	148人 (入居者100人+ 職員48人) (1箇所2施設)	4台 (40人乗) (入所者74人+ 職員32人)	5台 (1人乗) (入所者5人+ 職員5人)	11台 (1人乗1台) (2人乗10台) (入所者21人+ 職員11人)	【資料P27】
在宅の避難行動要支援者等の避難	22人 (要支援者11人+支 援者7人+安定ヨ 素剤服用不適切者 4人)	1台 (30人乗) (要支援者11人+支 援者7人+安定ヨ 素剤服用不適切者 4人)	0台	0台	安定ヨ素剤服用不適切者15人のうち、バスにより避難する者は4人、自家用車で避難する者は11人。 【資料P28】
観光客等の一時滞在者の避難	48人	2台	0台	0台	バス1台当り40人程度の乗車を想定。1日あたりの観光施設の入場見込み人数480人程度のうち、約9割が自家用車や観光バスで来場する想定で、その1割を想定対象人数として算入。 【資料P30】
<b>合計</b>	<b>397人</b>	<b>13台</b>	<b>5台</b>	<b>11台</b>	

※1 数字は現段階で泊村が把握している暫定値

※2 バスは、2種類の乗車人数(30人乗り及び40人乗り)により想定